

開教

Kaikyo



HONEN BUDDHISM

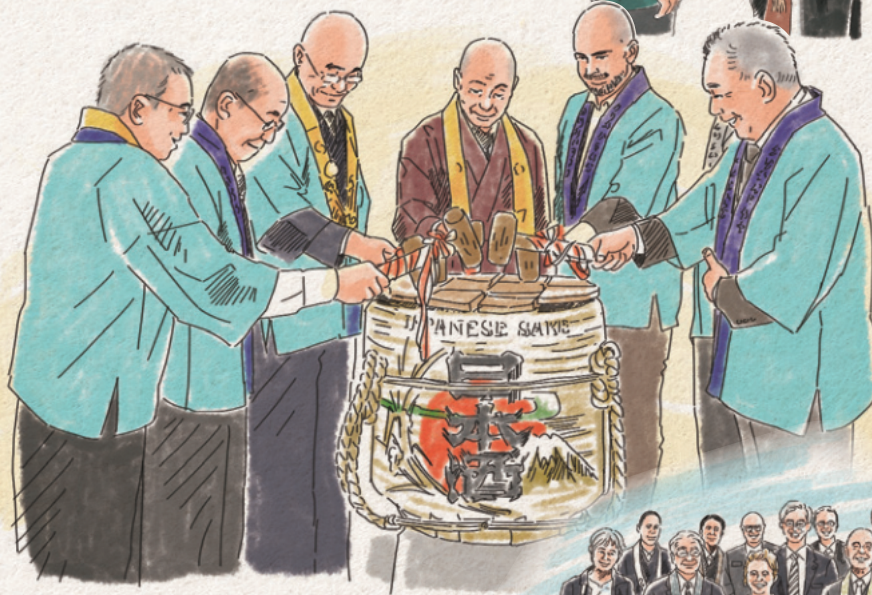
JAPAN, HAWAII, NORTH AMERICA, SOUTH AMERICA, BRISBANE, PARIS

南米
開教区

南米開教70周年記念法要と
クリチバ日伯寺落慶法要

オーストラリア
開教地

・「縁」
・重なる仏縁を感じた旅



ハワイ
開教区

「Yula Yula 的懺悔会並びに
開宗851年慶讃・ハワイ開教
131周年記念法要」奉修報告

北米
開教区

LA ストロング

フランス
開教地

「懺悔」を通して
～ドイツでの帰敬式～

国内
開教

国内開教通信 活動報告



2 ご挨拶 / ご支援のお願い

浄土宗開教振興協会会長 浄土宗宗務総長 川中 光教
 浄土宗開教振興協会理事長 杉山 俊明

海外開教

3 南米開教区
 南米開教70周年記念法要と
 クリチバ日伯寺落慶法要

南米開教区開教総監 佐々木 良法

5 オーストラリア開教地
 「縁」

オーストラリア開教地主事 ウィルソン 哲雄

重なる仏縁を感じた旅

浄土宗ともいき財団理事長 佐藤 行雄

9 ハワイ開教区
 「Yula Yula的懺悔会並びに開宗851年慶讃・
 ハワイ開教131周年記念法要」奉修報告

ハワイ開教区開教総監 石川 広宣

10 北米開教区
 LA ストロング

北米開教区開教総監 後根 定暉

11 フランス開教地
 「懺悔」を通して～ドイツでの帰敬式～

フランス開教地主事 高僧 光隆

国内開教

12 国内開教通信 活動報告

宮城県仙台市 十念寺
 住職 伊東 秀真

開教振興協会より

13 海外・国内開教使名簿

14 ご報告
 「南米開教70周年記念訪伯団」が育んだ新たな縁

15 浄土宗開教振興協会
 令和6年度 会員名簿

21 指定寄付納入者
 浄土宗開教振興協会 役員名簿・浄土宗開教振興協会 事業報告

23 浄土宗開教振興協会
 令和6年度 決算書

25 令和6年度 教区別会員比率

26 会員の声
 念仏を修せん所はみなこれ予が遺跡なるべし

福島教区中央組大千寺 畑 和徳

編集後記





ご挨拶

浄土宗開教振興協会会長
浄土宗宗務総長

川中光教

日系人約270万人が日本からはるか遠くブラジルの地で誇りを持ち、日本文化を大切にしながら生活しています。昨年は南米開教区において4カ寺目となるクリチバ日伯寺の落慶式がありました。これは浄土宗において稀有なことです。日本では新しい浄土宗寺院が創建されることはほぼありません。それどころか寺院を維持する事も厳しい時代に差し掛かっている中で、念仏の大合唱に包まれて新しい寺院が創建される非常にめでたい機会に立ち会わせていただきました。

落慶式に際し、一週間前には開教使を経験された諸先輩方が日本から現地に入り、我が寺のごとく一致団結して準備・裏方の作業にご奉仕されておりました。法要当日には多くの現地信者の皆様が参列され、中には改良服を着用されるほどの方も数人目に留まりました。その姿を拝見しますと着実な開教の実績を感じ取ることができました。ゼロから信者を生み出し、信者の中から僧侶を志す方が出てくる。開教の努力をぜひ日本の僧侶にも感じてくださいたいものであります。

南米開教70周年記念法要の導師を勤めていただきました大本山清浄華院御法主飯田実雄台下。法要後、観衆の中で揮毫し即座に完成された「慈悲」と「娑婆訶」の文字通り、阿弥陀様の慈悲のもと南米開教区に幸あらんことを願っております。



ご支援のお願い

浄土宗開教振興協会理事長

杉山俊明

皆様には、平素より当協会にご理解ご協力をいただきありがとうございます。昨年度は各地区の講習会等でご入会の案内並びに事業・活動のご説明の機会をいただきました事、御礼申し上げます。本年も引き続き努力する所存ですので、宜しくお願い申し上げます。

さて、私の理事長就任と同じくして始まった南米開教区クリチバ日伯寺建設につき、当協会では昨年3月に勧募を終了し、6月に記念訪伯団を派遣いたしました。同訪伯団には大本山清浄華院御法主飯田実雄台下のご巡教をいただき、川中光教宗務総長を団長として多くの諸大徳のご支援の下で、盛大裡に南米開教70周年法要と落慶法要を円成することが出来ました。また、オーストラリア開教地視察訪問ではウィルソン開教使の活動が認められ、木曜島の墓地整備が日本政府の支援と共に成されたことを確認いたしました。

海外で活動する開教使は、それぞれの地域で課題に対処し工夫しながら、お念仏の明かりを灯す活動を続けております。皆様におかれましては、この点ご理解をいただき益々のご協力とご支援をいただければと存じます。



訪伯団記念写真（サンパウロ別院）

ついでには、名付け親である大乗
 淑徳学園理事長長谷川匡俊上人
 が詳細な説明を下さいました。
 「源松山の源は浄土宗の開祖法
 然上人の名である源空から、松
 はクリチバの地名の本来の意味
 である松や松が群生する場所に
 由来します。すなわち、パラナ松
 で知られるクリチバに法然上人

の念仏の教えが花開き実を結ぶ
 ように、という願いが込められ
 ています。また、院号の明信院は、
 開山佐々木陽明師の明と初代総
 監長谷川良信師の信にちなんで
 おり、伝道の理念が脈々と受け
 継がれることを象徴していま
 す。」長谷川匡俊上人挨拶より）
 法要後は会場をレストラン
 に移し、祝宴が開かれました。
 参列者たちは笑顔で語り合い、
 思い出を分かち合いながら、
 長年の夢が実ったことへの喜び
 を体いっぱい表現していま
 した。宴の最後には、皆で輪に
 なり炭坑節を踊り、国や世代を
 超えて心ひとつに祝う温かな
 雰囲気がありました。
 新本堂の落慶を機に、今後は



長谷川匡俊大乗淑徳学園理事長

一層多くの方々が阿弥陀さま
 とご縁を結び、念仏の教えが
 南米の大地に広まるよう精進
 してまいります。具体的には、
 地域交流イベントや講演会の
 開催、子どもたちや若い世代
 向けの念仏教室の実施、地域
 福祉活動への協力など、多様な
 取り組みを積極的に展開し、



落慶法要祝宴

信仰と絆の輪をさらに広げて
 まいります。今日までご支援
 くださった皆様に心より感謝
 申し上げます。今後も一層の
 ご協力とご指導を賜りますよ
 う、何卒よろしくお願い申し
 上げます。



クリチバ日伯寺落慶法要記念写真



Arafura Sea Groupの木曜島日本人墓地参拝

「縁」

オーストラリア開教地主事 ウイルソン 哲雄

2025年の阿弥陀寺の活動は修正会から始まりました。

1月に修正会は当たり前と思われるでしょうが、こちらでは初めての試みです。オーストラリアでは1月は真夏で大変暑く、40度近くまで気温が上昇する日もあるため、今まで見送っていました。お彼岸やお盆の時期は比較的涼しく、野外に扇風機を数台持ち出して日陰で法要を行っています。1月の過酷な天候下、野外での催しは困難です。「けれど、阿弥陀寺の本堂でなら可能ではないか？」こう思い立ったメンバーの方々や私の強い希望で、修正会を開催することにしました。ただ、エアコンの設備がなく手狭なため、20名の人数制限を設けました。それでも窮屈で暑かったのですが、修正会を通してメンバー同士、また阿弥陀さまとの結びつきを強く感じた時間でした。お念仏を唱え抱負を語り合い、新年を迎えるにふさわしい時を過ごしました。

その修正会から間もない頃、「縁」が阿弥陀寺での活動に大きく関わっていると感じたことが

ありました。それは2月初旬、元駐オーストラリア大使であり

浄土宗ともいき財団理事長の佐藤行雄氏、開教振興協会理事長の杉山俊明師率いるグループによるオーストラリア訪問です。私が以前より大変お世話になっているお二方で、今回の訪問を通して阿弥陀寺のメンバーとの結びつきもできたように思います。更に、お二方はカウラ、木曜島でも現地の方々との縁を繋いでくれました。

カウラでの慰霊祭は、日本人墓地で行われました。この墓地では、日本人捕虜集団脱走事件と太平洋戦争で亡くなった方々のための追悼法要を勤めました。カウラでの捕虜集団脱走事件は戦中の悲劇ですが、こうした追悼法要は日本とオーストラリアの悲しみを癒し、二つの国の和解と調和に結びつきます。これは、カウラ市と市民、駐オーストラリア大使であった佐藤先生の尽力で成り立ったものです。佐藤先生がご在任の間に築き上げた信頼が土台となり、今の絆が更に太く強いものになりました。今回のご訪問で、昔の

良き懐かしい思い出も蘇ったのではないのでしょうか。

場所は木曜島に変わり、こちらの日本人墓地ではカウラとは違った目的で法要が行われます。1890年から1940年の50年の間に木曜島に約700基、トレス諸島の島々に約300基の墓標があり、木曜島では真珠採取に関わったダイバーの魂を安らげるために法要を行います。真珠採取は今では考えられないくらいとても危険な仕事でした。ご先祖様の命の犠牲によって今がある子孫として、毎年8月15日に敬意を払います。そして昨年6月、この木曜島で5年間にわたる大きなプロジェクトが完了しました。計519基の墓標の修復です。修復完了を記念する儀式には、ケアンズの日本領事の姿もありました。519基目の墓標は、藤井富太郎氏の子孫、RusselとChi-Funの2人によって建てられました。以前の墓標は全て、この藤井氏によって70年前に建てられたものです。

昨年最後の木曜島への旅は、11月です。和歌山県串本町から移住したダイバーの慰霊を目的として同町より訪問団があり、私は木曜島の和歌山県人会とArafura Sea Group（潜水夫遺族

会）から招待を受け、法要を勤めました。串本町からは今回が初めての訪問で、子孫の方々のお姿もありました。長い時と距離がありました。彼らは先人を忘れたことはありません。「供養をしたかった」「立派にご活躍になったご先祖様の命、時と距離を超え同じ土地で想いを共有したかった」そうおっしゃっていました。そしてこの貴重な場にご一緒できる私は、とても光栄に思いました。

私たちの幸せは、相手との関係性で高まるのではないでしょう。これは、私が阿弥陀寺にお見えになる方々を見てきて感じたことです。こちらでの主な行事は「お彼岸・お盆・写経会」がありますが、参加した方々の気持ちや穏やかで快い気持ちになっているのを見えます。厳かに読経に聞き入る、唱える、そしてその後の楽しいお茶会での時間。個人個人の結びつきがあつて知り合う「縁」を阿弥陀さまが照らしてお導きになっています。



木曜島の墓標修復完了

重なる仏縁を感じた旅

浄土宗ともいき財団理事長 佐藤 行雄

昨年2月、杉山俊明浄土宗開教振興協会理事長のお誘いで浄土宗のオーストラリア視察団に参加させていただいた。久しぶりのオーストラリアだったが、幾重にも重なる仏縁を感じる旅となった。

新纂浄土宗大辞典には、「縁」とは「結果が生じるための条件」とある。これに従うと、この旅で私が経験したことは、過去に自分がしたことがその当時には想像もしなかった結果を生む「縁」になったことを知った喜びであり、さらに、そうようになったことは仏様のおかげ、まさに「仏縁」と思ったことだった。

振り返ると、今回感じた「仏縁」の始まりはちょうど30年前に遡る。1996年、当時駐オース

トラリア大使だった私は、公務で一時帰国の折に成田有恒宗務総長(当時)をお訪ねして、個人として、「浄土宗にカウラや木曜島の日本人墓地で追悼法要を営んでいただけませんか」とお願いした。

カウラは太平洋戦争中に捕虜収容所があった町。「虜囚の身を恥じて死を覚悟で集団脱走事件を起こして死亡した日本兵捕虜の方々のお墓を中心に、戦時中にオーストラリアで亡くなった日本人の方々のお墓も加えた日本人墓地があり、その脱走事件の際に死亡した豪州軍兵士の墓地が並んでいる。この墓地は、私の在任当時も今もカウラ市当局と退役軍人会によって大事に管理されており、日本政府も

要が営まれており、私がいた当時は、シドニーで活動されていた浄土真宗の僧侶の方が導師を務めておられた。

一方、木曜島には19世紀末以来、当時はボタンの材料にしていた真珠貝を採取していた、主として今日の和歌山県や愛媛県出身の日本人潜水夫やその関係者の方々のお墓がある。オーストラリア東部の北端の海に浮かぶ島のために訪れる人も少なく、墓地は近年までかなり荒廃が進んでいた。日本人墓地には700基ほどのお墓があるが埋葬されている方々の氏名や出身地がわかるのは250基ほどで残りの450基ほどについては記録も失われ、墓標すら失われているものも多いという状況だった。

1964年にオーストラリア政府と覚書を交わして以来、墓地の管理保全のために毎年資金を拠出している。また、この墓地では毎年追悼法

話を戻して、私が追悼法要のお願いをしてから1年余り経った1997年の11月から12月にかけて、成田宗務総長が自ら浄土宗代表団を率いてオーストラリアを訪れ、カウラと木曜島で追悼法要を営んで下さった。宗の議会にも諮られた上で、「選択本願

念仏集奉戴八百年記念事業」として、また「日豪修好百周年協賛事業」として企画されたものだった。私を知る限りでは、浄土宗の代表団がオーストラリアの日本人墓地で追悼法要を営んだのはこれが初めてだった。

この成田総長のご訪問が、今日の様々な結果につながる「仏縁」の端緒となった。例えば、今日ブリスベンで浄土宗の開教使として活動しているオーストラリア人僧侶、ジェームズ・ウィルソン・哲雄師が僧侶になることを決意したきっかけの一つが、木曜島での追悼法要を終え、ブリスベンに立ち寄られた成田総長がウィルソン・哲雄師の母上と会われたことだった。「お寺がなくて寂しい」というウィルソン夫人の言葉を聞かれた成田総長が、帰国後石造りの地藏像を同夫人に送られたのだ



2025年2月 左より筆者、鈴木大使、杉山理事長、ウィルソン師



1997年11月 成田宗務総長(当時)の訪蒙

が、「この地藏像を見ていたことが、自分が僧侶になるきっかけの一つでした」と本人から聞いた。私が成田総長に追悼法要をお願いした時には予想もしなかった展開が一人のオーストラリア人僧侶・ウィルソン・哲雄師の誕生に繋がったことを知り、正に「仏縁」だと思った。

ウィルソン・哲雄師からはさらに驚かされる話を聞いた。その発端も私がオーストラリアに勤務していた時のことだった。当時、私は出張で訪れた各地で、終戦後に占領軍として広島に駐屯していた豪州軍人と結婚してオーストラリアに渡った日本人妻の方々のことをよく耳にした。「白豪主義」と呼ばれた白人優位の発想に加えて、戦時中の反日感情が強く残っていたオーストラリア各地で、日本人妻の方々が、「その生き様を通じて、周囲の人たちの日本人を見る目を改めさせた」という話である。

そのような時に、オーストラリア政府が、駐日豪州軍の功績



寄贈された地藏像



2004年6月 ウィルソン・哲雄師
(阿弥陀寺開山法要時)

を顕彰するために、首都キャンベラにある戦争記念館の一角に小庭園を作ることを決めた。このことを知って私は、この機会を捉えて、反日感情が強かった戦後のオーストラリア社会で「周囲の人々の日本人を見る目を変えた」日本人妻の方々に對して、日本政府として謝意を表することはできないかと外務本省に相談し、高村正彦外務大臣(当時)の感謝状が出されることになった。また、日本人妻の方々がご高齢になられていることも考えて、オーストラリア国内にあった四つの日本総領事館の協力も得て、首都キャンベラにある大使館と四つの総領事館の五ヶ所で同日にリセプションを開き、外務大臣の感謝状を伝達することにした。しかし、誠に残念ながら、その段階で私は国連への転勤を命じられ、日本人妻の方々に外務大臣の感謝状を直接お渡しすることはできなかった。それでもその後、感謝状

を受けとられた何人かの方からのお手紙をニューヨークで読んで、家内とともに感動した。

このような経緯があったので、ウィルソン・哲雄師から「亡くなった父は広島に駐屯していたオーストラリア軍人でした」と聞いた時に、私はこの感謝状の話をした。それに対して彼から、「母はそのリセプションには出席しませんでした、日本の外務大臣の感謝状が居間の壁に大事にかけてあったことを覚えていいます」という言葉を聞き、あの時の日本人妻のお一人の息子さんと出会えたことに感動したし、そのような出会いが実現したことにも「仏縁」を感じた。

ここから先は、私が直接関わらないところで起きたことだが、ウィルソン・哲雄師が2003年に故郷のプリズベンで光栄山浄土院阿弥陀寺を開山したことにも、浄土宗の木曜島への関わりを深めることに繋がった「仏縁」を感じる。

木曜島日本人墓地の修繕に浄土宗が本格的に関わるようになった契機は、2018年1月に、当時の豊岡鎌宗務総長のオーストラリア訪問に同行した杉山俊明社会国際局長が、木曜島墓地での追悼法要の後、プリ

ズベンで柳井啓子総領事(当時)を訪ねられたことにある。その時に、木曜島日本人墓地についての杉山局長の話を聞いた柳井総領事が、木曜島が属するトーレス市が企画していた日本人墓地の修繕事業に協力する方向で外務本省を説得され、日本政府が2018年度に6万8500豪州ドルの資金支援をすることを決めた。この資金支援によって日本人墓地修繕計画が軌道に乗り、2018年8月から修繕事業が始まったのだが、もし、プリズベンに阿弥陀寺がなかったら杉山局長がプリズベンに立ち寄られたらどうかと考えると、阿弥陀寺の開山が浄土宗の木曜島との深い関わりという結果を生む「縁」になったと、私には思える。



2018年1月 豊岡宗務総長(当時)、
カウラ墓地にて



2018年1月
杉山社会国際局長(当時)、
柳井総領事(当時)を訪問

性に触れておきたい。その一つは、杉山理事長が出発に先立ち、木曜島と最も関係の深い和歌山県串本町と和歌山県庁を訪ね、木曜島関係を担当する方々と協力の可能性について話し合われたことである。これを契機に今後、木曜島日本人墓地の保全のための和歌山県との協力が深まる可能性が期待される。

もう一つは、杉山理事長が首都キャンベラで鈴木量博駐オーストラリア大使に浄土宗の報告されたことで、これも今後への布石になったと、私には思われる。ウイルソン・哲雄師が毎年勤める日本人墓地での追悼法要は、今やクインズランド州の木曜島、ニュー・サウスウェールズ州のカウラと西オーストラリア州のブルームにまで広がっている。その一方で、邦人に対する保護・支援等は日本総領事館の仕事なので、各地で追悼法要を営むウイルソン哲雄師が総領事館や日本人社会の協力を必要とする場合には、木曜島についてはブリスベン、カウラについてはシドニー、ブルームについてはパースにある総領事館が相談相手となる。

最後に、冒頭に記した浄土宗オーストラリア視察団が、将来に向けて新たな「縁」となる可能

ではないだろう。

ラリアの州レベルの行政区域のほぼ半分に当たる三つの州にまたがって浄土宗が営む日本人墓地での追悼法要は、日本とオーストラリアとの間の国家関係にとっても意味のある活動になりつつあると私には思われる。現に、鈴木大使も杉山理事長の報告に強い関心を示され、浄土宗の活動に謝意を表明されていたし、その後木曜島日本人墓地でのお盆法要にも参列されたと聞いた。なお、日本の大使が木曜島日本人墓地での法要に参列されたのはこれが初めてではないし、その目的も先人を追悼するためであって、特定の宗教の行事に参加されるためではないことは言うまでもない。

結びに一言付け加えさせていただくと、寺に生まれ育った故かとは思いますが、私がかねて、世界各地に残る日本人墓地を大切にすることは、宗教や宗派の別を超えて日本人として当然心掛けべきことであると考えてきた。その延長線上で私は、オーストラリアで浄土宗が近年始めた追悼法要が、宗教や宗派の相違や人種の違いを超えて、現地の地域社会や日本人社会に広く開かれたものに発展することを期待している。そうなることを、

昨年の旅で感じた幾重にも重なった「仏縁」が生きると、私には思われる。



2004年6月の阿彌陀寺開山法要

ハワイ開教区

Hawaii

「Yula Yula」的懺悔会並びに開宗851年慶讃・
ハワイ開教131周年記念法要」奉修報告

ハワイ開教区開教総監 石川 広宣

昨年10月26日、ハワイ浄土宗別院において、神奈川教区様との共催で「Yula Yula」的懺悔会」および「浄土宗開宗851年・ハワイ開教131周年記念法要」を厳修しました。「Yula Yula」という名称は実行委員長・佐々木元洋上人発案によるもので、



懺悔紙の浄焚

蠟燭の揺らめきを表す擬態語に由来し、2014年ハカラウ浄土院での第1回キャンドル・ナイトが原点であり、今回は第2弾です。当日は、檀信徒をはじめ開教使8名、日本から夏見裕貴教区長・宮林雄彦宗議会議長を中心とする僧侶ら10名が来訪され、厳肅さと温かな交流が調和する一日となりました。

の設えの中、導師として当職より説論を行いました。暗闇にお念仏の響きと共にLEDキャンドルが順に灯され、柔らかな光が堂内を包んでいく光景は、「貪瞋癡」の闇から阿弥陀さまの光へと導かれる浄土の教えを象徴する、大変幻想的なものでした。そんな光景の広がる内陣で参詣者が署名した懺悔文を浄梵し、一人一人の灌頂を行いました。堂内に集った全員が、内省と共に互いの平安と地域社会の安寧を祈念するひとときとなりました。正午からは、開宗851年慶讃・開教131周年記念法要を厳修しました。導師は夏見教区長、証明師は宮林上人、脇

導師は当職と江崎晃司開教使会長、日本とハワイからの僧侶が式衆として整列し、荘厳な雰囲気の中、歴代ハワイ開教使・助員・檀信徒の回向を勤めました。代表焼香は、日本代表としてハカラウ浄土院開山上人である相馬千里上人の曾孫にあたる相馬正覚上人、別院代表として故北島良雄開教使の孫にあたる北島イアン氏、そしてハワイ13カ寺代表としてレナード・チャウ開教区理事長が務められました。夏見導師の表白では、法然上人の教えがハワイに受け継がれてきた歩みが振り返られ、先人への感謝と今後の教化発展への祈りが丁寧述べられました。懇親会では皆が世代を越えて交流を深める中、ハワイ雅楽会と夏見教区長はじめ有志による雅楽の音色が会場に華やかに響きました。また、開教区で取り組む「鯉のぼりセレブレーション」事業に対し、佐々木上人より全長7メートルの鯉のぼりが寄進され、その披露も併せて行われました。

今回の行事は、神奈川教区諸大徳の発案による「記念行事の正当年に限定しない継続性ある教化活動」を念頭に企画されたもので、昨年の開宗850年・開教130年に続き翌年にも開催したことに大きな意義があります。私共現地開教使にとりましても、伝統を守りつつ現地社会と共に歩む仏教の姿を改めて確認する貴重な機会となりました。おかげさまで、参詣者からは「厳肅さと美しさに涙がこぼれた」「お念仏の教えを体験として味わえた」など、温かな感想を多数頂戴しました。こうした声を励みに、今後も地域に根ざした活動を推進すると共に、日本の皆さまとの協同企画や会場提供等の事業も積極的にやりたいと存じます。



北米開教区

North America

LA ストロング

北米開教区開教総監 後根 定璽

北米開教本区は現在、LA郡南西部に位置し大きな日系社会のあるトーランス市に仮事務所を設け、檀信徒の協力のもと宗教活動と堂宇移転候補地の探索に従事しています。

北米本区は1950年代より40年間LA市西南地区に立地、1965年の暴動に伴う治安

悪化により、199

2年に最初の移転

を行いました。当時

多くの日本企業が

進出していたLA

ダウンタウン近郊

の新殿堂は見事な

重層建築で、二階に

寺院二階に佛教大

学LA校を併設し

た「布教と教育」を両

輪とする開教拠点の

誕生でした。30年の

間にLAセミナー、開

教70周年と80周年

五重相伝、800年

大遠忌など様々な

活動が実現し、皆様

より賜りましたご支援に改めて感謝申し上げます。

一方その間、バブル崩壊と共に多くの日本企業は去り、2001年の9・11、2008年のリーマン金融危機により政治・経済・社会的健全性が徐々に失われていきました。本区に隣接するスキッド・ロウ（スラム街）のホームレス数は1万人弱に達し、本区周囲は浮浪者がテントを張って住み着く事態となりました。薬物、物乞い、車両や建物破損と放火、落書きは日常的で、ホームレス人口拡大は深刻な社会問題となりました。

北米開教区理事会は討議を重ね、檀信徒の安全を第一に2016年末の理事会にて堂宇移転を決議しました。しかしもなく、コロナの世界的流行により国境・都市が封鎖され、集会の制限・学校や企業の閉鎖等の規制が課せられました。全面的な制限解除は2023年となり、統計によれば米国の感染者数は約1.2億人、死者数30

0万人超という惨禍となりました。この状況下、幸いにも2023年4月に建物売却が成立し、移転の第一段階を遂げることができました。

さて昨年1月、ロス北部の火事をご記憶と存じます。山火事が強風で住宅地に延焼、死者12人・住宅焼失6000棟を数え、より北部のイートン地域でも19人が死亡、住宅9400棟が焼失する大惨事となりました。被災地域は今も目を背けたくなるような光景です。自宅焼失者の中にはメンバーの方々もおられ、本区としても心痛と共に安否確認に奔走しました。

アメリカではテロや災害の被災下にあつても「LA Strong（LAよ、強くあれ）」など前向

きな標語を掲げ、市民の自助努力と奉仕を呼びかけます。この姿を示す言葉に「Resilience（レジリエンス）」があります。

回復力とも訳されますが、「いかに個人がストレスに対処し逆境を跳ね返すか」を示す概念です。この火災でも慈善団体のみならず、被災者自身がこの精神を示すがごとく復興活動に従事される姿に触れました。檀信徒の方々からもそれぞれ支援活動に奉仕されていると聞き、「阿弥陀さまの慈悲」の実践と有り難く思いました。

日本では、どこへ行っても安全は当たり前のように感じられますが、多民族・複合文化社会アメリカにおける安全は、高い代価を払って初めて求めることが可能となります。外から日本を観ると、海外では考えられないような貴重な文化・伝統が多く存続していることが分かります。北米本区では、この安全性を念頭に二度目の移転に臨んでいます。皆様のご理解ご支援をお願い申し上げる次第です。



2025年 お盆・お施餓鬼法要



法要にて檀信徒のスピーチ



ドイツでの帰敬式

「懺悔」を通してドイツでの帰敬式

フランス開教地主事 高僧 光隆

フランスの浄土宗ヨーロッパ

さて、昨年9月下旬、フランス

仏教センターは2007年に発足し、故真野龍海台下をお招きして協会披露記念講話会を開催以来、現在に至っています。偏に皆さまのご理解とご支援、そして故真野台下の長年の尊いご協力、また故佐々木陽明南米総監のご指導、当協会メンバーのお力添えのおかげと深く感謝しています。またドイツでは、2024年に浄土仏教協会が設立され活動を行っています。メンバーはドイツ・イギリス・イタリア・オランダ・スイス・フィンランド・クロアチアなどヨーロッパ諸国の方々です。ドイツ協会の代表は開教使補のフランク光然氏です。彼はドイツ語・日本語・英語等を含めて4、5ヶ国語に堪能ですが、「出生地はドイツ・ベルギー・オランダの3ヶ国が接する国境近くですし、オーストリアとスイス等、この辺一帯の言葉は日本語という方言のようなもの」とのことです。

浄土宗協会の橋本副代表にも同行いただき、ドイツ浄土仏教協会が企画した3日間の念仏会の中日に帰敬式を行いました。道場はボン市内の運動ジムの一室で、オーナーがドイツ協会の活動に共鳴され無料で提供下さいました。受者に加えスペイン・イタリア・ミュンヘンからメンバーが駆け付け、その他オンラインでの参加者もありました。戒師の私はドイツ語が出来ないので、開教使補フランク光然氏が通訳を務めました。

帰敬式における「懺悔」は大切な儀式ですが、キリスト教の告解や懺悔のように「神」に許しを求めるのではなく、自分自身のカルマからの浄化に関するものです。自分自身と仏様と二人きりで、瞋り・貪欲・妄想によって積み重なったカルマを反省し、仏道を歩むにあたり自身の心の浄化を誓うものです。七仏通誡偈の「自



パリでの花まつり

浄其意」の如く、私たちはこの静寂と厳肅さ、そして仏様との親密な時間に日常とは異なる感情を抱くものです。仏教における懺悔が、私たちの生活と仏道を歩むのに重要であることを感じていただけたと思います。その後、灌頂作法を授け、三帰三竟、三宝に帰依する誓いを行いました。

式の中で私は、14歳の時に増上寺で受けた得度式の話をお話ししました。戒師は椎尾弁匡台下で、90歳近くになられていた台下は私どもに優しく法話をして下さいました。その時からずっと私の心に残っていることを思い出と共に話し

たのですが、私は「法をお伝えする」ということに不思議な感慨を覚えました。日常生活の中で、私たちは皆、嬉しいこと、悲しいこと、さらには痛みを伴うことを経験し続けるものです。それらを抱きながらお陰様の感謝の心でこの生命を大切にすること。今回自ら戒師を務める中で、改めてこのことへの思いを深くした次第です。

今後も浄土宗ヨーロッパ仏教センターの活動を通じ、お念仏の仲間をフランスやドイツ以外のヨーロッパ諸国にも持ちたく思っています。皆さまのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ミラノでの講話会

活動報告

宮城県仙台市 十念寺 住職 伊東 秀眞

ご縁の中で

令和7年度も、葬儀や法要の場を通じて、阿弥陀仏の救いのできるだけわかりやすい言葉でお伝えすることを心がけてまいりました。とくに「俱会一処」の御教えは、大切な方を亡くされたご遺族にとつて大きな支えとなると思われまします。折に触れてお話ししています。浄土宗の御教え



春彼岸法要

とともに力を入れていっているのが、葬儀に関する相談対応です。葬儀の進め方や法名、費用についての不安に丁寧に向き合うことも、開教寺院として大切な役割だと考えています。問合せ自体は、それ程多くはありませんが、これまでのご縁の有無にかかわらず安心していただけるよう、葬儀について費用面の不安や進め方についてお話しさせていただいております。

これからも

社会情勢の変化として、データから見ても仏式での葬儀の需要は減ってきているようで、核家族化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化により、寺院と人との継続的な関係が築きにくい



ひとやすみカフェ

時代となりました。従来の檀家制度を前提とした寺院運営は、特に開教寺院にとつては成り立ちにくく、葬儀・法要の件数に依存した経営は、社会構造の変化の中で不安定さを増していると言えます。また、無宗教志向や簡素な葬送を選択する人が増える中で、「僧侶は必要なのか」「儀礼に意味があるのか」といった異なる価値観を持った方々の増加は、寺院にとつて逆風である一方、お葬式における仏教や浄土宗の教えそのものが、十分に伝わってこなかった結果でもあると感じています。

しかし一方で、死別や喪失に直面したとき、言葉にならない不安や悲しみを抱える人

が確実に存在していることも、現場に立つ中で強く実感しています。形式や規模が変わったとしても、「いのちをどう受け止めるのか」「亡き人をどう送り、残された者がどう生きていくのか」という問いそのものがなくなることはありません。

今後の開教寺院に求められるのは、従来の先祖供養に固執するのではなく、生活の中に寄り添い、必要とされる場面で仏教の言葉と行いを届けていく姿勢であると考えます。葬儀や法要に限らず、相談、対話、学びの機会を通じて、阿弥陀仏の教えが「生き方の支え」として伝わる関係を、一つひとつ丁寧に築いていくことが重要ではないでしょうか。

開教寺院の運営は決して容易ではありませんが、だからこそ既存の枠にとらわれない柔軟さと、数字だけを追うのではなく、目の前の一人に向き合う積み重ねの中にこそ、これからの寺院の可能性と発展の道があると考えています。

海外・国内開教使名簿

令和7年12月末日現在

海外開教区

	氏名	赴任寺院
ハワイ	開教総監	石川 広宣 ハワイ浄土宗別院・コロア浄土院・カパア浄土院
	開教使	高野 明宏 ハワイ浄土宗別院
		田邊 孝顕 ハワイ浄土宗別院
		江崎 晃司 ハレイワ浄土院
		宮崎 潤心 ヒコ明照院・カーチスタウン浄土院・ハカラウ浄土院
		ワジラワンサ舜爾 ハヴィ浄土院・コハラ浄土院
		原 源照 ラハイナ浄土院
		原 潮音 ワイルク浄土院・カフルイ浄土院

北米	開教総監	後根 定璽	北米開教本院・シカゴ浄土宗教会所
----	------	-------	------------------

南米	開教総監	佐々木 良法	マリンガ日伯寺
	開教使	稲場 明忠	南米浄土宗別院日伯寺
		山田 英規	南米浄土宗別院日伯寺
		櫻井 聡祐	イビウーナ日伯寺
		大江田 晃義	クリチバ日伯寺

オーストラリア開教地

	氏名	指定地域
主事	ウィルソン哲雄	クイズランド州 ブリスベン一円

フランス開教地

	氏名	指定地域
主事	高僧 光隆	パリ市一円

国内開教

国内開教地域	寺院名	国内開教使
宮城県仙台市泉区及び富谷市とその周辺	十念寺	伊東 秀眞

「南米開教70周年記念訪伯団」が育んだ新たな縁

クリチバ日伯寺本堂建立に際し、当協会では勧募事業（開教第42号にてご報告）と訪伯団（2025年6月）の二つの事業を実施しました。ご協力賜りました会員諸大徳に感謝申し上げます。

この度建立されたクリチバ日伯寺には、仏教寺院として同市市民・日系社会への精神的安寧や文化交流等の地域貢献が期待されております。このことから、佐藤行雄浄土宗ともいき財団理事長より、元ブラジル駐箚特命全権大使としてブラジル各地の日系社会に精通された梅田邦夫氏の紹介を受け、杉山俊明当協会理事長・大江田晃義開教使の在クリチバ総領事館・商工会議所との懇談会に同行いただく運びとなりました。偶然にも、6月は秋篠宮佳子内親王殿下のパラナ州訪問と重なり行政各所との日程調整は困難でしたが、梅田氏のサポートを受け無事懇談会を実施できました。また結団式では、ブラジルの国内状況など、団員に詳しくご教示下さいました。

さらに梅田氏より、ブラジル各地を巡回診療されている森口秀幸医学博士の紹介を受け、クリチバにて杉山理事長・大江田開教使が面会する機会を得ました。この面会が縁となり、昨年8月、大江田開教使が巡回診療に同行し医療現場を学ぶと共に、法要や法話を通じ遠隔地在住の日本人移住者と交流する機会へと結び付きました。以下に大江田開教使の所感をご紹介します。

森口博士の診察は、まず一人あたり約40分かけ、一年間の体調の変化についてじっくりと話を聞くことから始まりです。また巡回診療にとどまらず、常に患者さんと連絡を密にされています。移動中の車内では、様々な健康相談のメッセージで森口博士の携帯電話は鳴り止まない状態でした。時には人間関係の相談に乗ることもあるようで、「自分にできることは何でもする」というその精神に深い感銘を受けました。博士に倣い、診察を待つ患者さん一人一人と話を

したところ、近隣に日本寺院がないためカトリックで葬儀を行った家族もあり、今回仏具を持参して行った法要を喜んで下さいました。祖父の時代から三代にわたり森口博士がボランティアで続けているこの巡回診療、今も変わらずあるのは「日本人移住者のために尽くしたい、移住地を守りたい」という純粹な思いです。それは正に、我々開教使の抱く思いや、開教活動にも共通するものです。今回、開教の原点でもある「人の話を聞く」ことを真摯に実践する機会をいただき、有難く思います。今後でもできる限り巡回診療に同行し、少しでも日本人移住者の心の安寧に寄与したいと思えます。

ご報告



ブラジル国内状況を説明する梅田元大使



巡回診療での法要にて 大江田開教使

南米開教区開教使 大江田 晃義

13日間、走行距離約1770キロにわたった今回の巡回診療同行は、私にとって開教使としての原点を呼び覚まされる旅となりました。「精神的ケアとして、僧侶の立場でお年寄りの話を聞いてほしい」。同行にあたって最初に言われたことですが、それは正に森口博士の診察を表現する言葉でした。

祖父の時代から三代にわたり森口博士がボランティアで続けているこの巡回診療、今も変わらずあるのは「日本人移住者のために尽くしたい、移住地を守りたい」という純粹な思いです。それは正に、我々開教使の抱く思いや、開教活動にも共通するものです。今回、開教の原点でもある「人の話を聞く」ことを真摯に実践する機会をいただき、有難く思います。今後でもできる限り巡回診療に同行し、少しでも日本人移住者の心の安寧に寄与したいと思えます。



巡回診療の様子

会員名簿

■原則として功績点付与者と掲載しています。

会員 所属は納入時

令和6年4月1日(令和7年3月31日)

大本山 光明寺 柴田 哲彦
特別寺院 誕生寺 漆間 勇哲

〔教区/組〕 〔寺院名〕 〔氏名〕

北海道第一函松 称名寺 高橋 昌宏
豊國寺 葛 龍明

江差 永称寺 井上 歩導
照光寺 瓜田 暁樹

中央 常願寺 山内 幸生
教立寺 宗川 誠真

室蘭 法界寺 仲井 啓晨
満岡寺 飯島 雅孝

仙海寺 及川 順功
仙海寺 及川 聖光

善照寺 佐々木 勝芳
歸厚院 成田 昌宏

小樽 宝隆寺 寺井 賢一
天上寺 石上 一哉

北海道第二 正福寺 大高 陽照
報恩寺 小山 英明

西 回向院 村田 賢洋
法隆寺 石山 昭憲

南 龍雲寺 丸山 宗憲
天徳寺 片山 孝立

阿弥陀寺 松岡 瑞翔
北泉岳寺 皆上 泰信

青森

弘南

大善寺 山崎 定伸
長昌寺 長尾 昭圓
貞昌寺 赤平 法導

北

徳増寺 間山 泰人
法王寺 古川 泰人
願昌寺 小山内 惠逸

西

善導寺 秋谷 昇龍
薬王寺 藏澤 豊彦
海満寺 成田 憲信

東青

浄満寺 長尾 量導
称光寺 三上 良淳
称光寺 三上 英淳

上北

観音寺 武田 全享
常照寺 築田 信義
平安寺 葛西 満永

下北

多善寺 久慈 成義
青龍寺 廣田 徹雄
大泉寺 鈴木 恭慈

岩手

圓光寺 加藤 光順
光臺寺 岩瀬 崇史
正覚寺 柴内 宏治

盛岡

善導寺 黒沢 智和
廣隆寺 谷地 玄明
廣隆寺 谷地 玄光

花巻

松岩寺 小川 隆英
松岩寺 小川 大俊
真城寺 吉水 義教

秋田

浄土寺 菅原 英道
誓願寺 鬼海 信隆
正覚寺 小林 良悦

山形

浄蓮寺 高橋 昭學
常光寺 佐藤 龍彦
稱念寺 佐藤 一彦

上

來運寺 東谷 信昭
稱念寺 佐藤 智史
常光寺 佐藤 一彦

宮城

鶴岡

松念寺 川越 正信
常念寺 渡邊 剛紀
西方寺 大江田 紘義

第一

愚鈍院 中村 龍樹
愚鈍院 中村 龍樹
雲上寺 中村 瑞貴

第二

浄土寺 東海林 良昌
浄土寺 中澤 良宣
浄土寺 中澤 秀宣

第三

長龍寺 那須 祐淨
蓮光寺 中村 悟眞
來迎寺 奥山 清康

第六

往生寺 豊嶋 亮賢
往生寺 豊嶋 亮賢
九品寺 遠藤 瑞俊

福島

満藏寺 加藤 正典
能満寺 大庄司 秀應
大千寺 畑 善徳

中央

大安寺 青柳 良憲
大安寺 青柳 良憲
東圓寺 佐藤 芳文

群馬

誓傳寺 日塔 徳裕
蓮家寺 福井 宏道
常宣寺 蓮沼 一紀

高崎

光明寺 斎藤 賢修
永心寺 見澤 清芳
善福寺 天野 昌道

吾妻

雲晴院 茂木 真道
正幸寺 瀧澤 現秀
善福寺 天野 昌道

前橋

長念寺 稲村 博道
長念寺 稲村 博道
西福寺 茂木 恵順

栃木

神光寺 宮本 美江
法玄寺 和田 幸信
徳正寺 和田 幸信

芳賀

常光寺 松濤 孝佳
常光寺 松濤 孝佳
常光寺 松濤 孝佳

茨城

水戸

清巖寺 上田 典良
誕生寺 永徳 眞隆
香仙寺 三宮 治穂

霞北

引接寺 安西 弘志
照光寺 吉水 幸憲
得生寺 長谷川 夏生

常総

調法寺 松本 一浩
弘経寺 金田 冬彦
弘経寺 金田 冬彦

絹島

西福寺 中郷 正史
宝輪寺 田中 勝道
宝輪寺 田中 勝道

第一

高福寺 小澤 孝規
高福寺 小澤 孝規
高福寺 小澤 孝規

第二

西光寺 春本 秀雄
西光寺 春本 秀雄
西光寺 春本 秀雄

第三

大信寺 樋口 清行
大信寺 樋口 清行
大信寺 樋口 清行

第二

源長寺 渡邊 昭彦
源長寺 渡邊 昭彦
源長寺 渡邊 昭彦

第三

相頓寺 和氣 昭祐
相頓寺 和氣 昭祐
相頓寺 和氣 昭祐

第二

自然寺 辻 一貴
自然寺 辻 一貴
自然寺 辻 一貴

第三

報土院 渡邊 満明
報土院 渡邊 満明
報土院 渡邊 満明

第二

安國寺 町田 唯真
安國寺 町田 唯真
安國寺 町田 唯真

第三

林西寺 川端 純庸
林西寺 川端 純庸
林西寺 川端 純庸

第三

深廣寺 石垣 直人
深廣寺 石垣 直人
深廣寺 石垣 直人

指定寄付納入者

(所属は納入時)

令和6年4月1日～令和7年3月31日

ハワイ開教区へ

大本山百萬遍知恩寺
浄土宗社会福祉協会

一三、六五七円
一〇〇、〇〇〇円

南米開教区へ

青森教区	弘南組	遍照寺	花田	俊岳	五〇、〇〇〇円
秋田教区	中央組	誓願寺	小熊	良和	一〇〇、〇〇〇円
山形教区	山形組	稱念寺	佐藤	智史	五〇、〇〇〇円
宮城教区	第一組	昌繁寺	佐藤	純也	一〇〇、〇〇〇円
群馬教区	高崎組	九品寺	神津	光明	三〇〇、〇〇〇円
群馬教区	館林組	善導寺	后井	侯雄	一、〇〇〇、〇〇〇円
栃木教区	佐野組	一向寺	東	好章	一〇〇、〇〇〇円
栃木教区	晃北組	如来寺	桑門	秀光	一〇〇、〇〇〇円
栃木教区	宇都宮組	大運寺	双樹	正道	一〇〇、〇〇〇円
栃木教区	塩那組	高性寺	荒川	昭宣	五〇、〇〇〇円
茨城教区	常総組	円明寺	大竹	正人	五〇、〇〇〇円
茨城教区	猿島組	正定寺	平間	俊宏	五〇、〇〇〇円
埼玉教区	第一組	専稱寺	赤羽	海衆	五〇〇、〇〇〇円
神奈川教区	中郡組	善徳寺	三荒	学道	二〇〇、〇〇〇円
山梨教区	甲府組	善光寺	吉原	優人	二〇〇、〇〇〇円
山梨教区	甲府組	称念寺	秋山	秀道	五〇、〇〇〇円
山梨教区	都留組	善導寺	花園	龍智	五〇、〇〇〇円
富山教区	新川組	大泉寺	林	秀峰	五〇、〇〇〇円
長野教区	伊那組	峯高寺	篠田	知並	三〇〇、〇〇〇円
静岡教区	北豆組	蓮馨寺	掬池	晃雄	一〇〇、〇〇〇円

静岡教区	清水組	實相寺	中村	康祐	二〇〇、〇〇〇円
伊賀教区	鞍田組	森紅寺	井上	良純	一〇〇、〇〇〇円
福井教区	敦賀西組	寶國寺	清水	賢涼	一〇〇、〇〇〇円
奈良教区	第三組	念佛寺	赤土	隆昭	五〇、〇〇〇円
和歌山教区	日高組	浄土院	前田	昌宏	五〇、〇〇〇円
兵庫教区	神戸組	願成寺	濱田	賢時	五〇、〇〇〇円
石見教区	大田組	福城寺	三上	智紀	五〇、〇〇〇円
石見教区	瀬摩組	西念寺	近江	康忠	一〇〇、〇〇〇円
山口教区	周南組	阿弥陀寺	三谷	俊雄	一〇、〇〇〇円
愛媛教区	宇和島組	了月院	財津	圭佑	五〇、〇〇〇円
福岡教区	嘉穂組	本誓寺	千々和智明		二〇〇、〇〇〇円
熊本教区	第二組	空寂院	友浦	昭孝	一〇〇、〇〇〇円
大分教区	第三組	浄運寺	吉田	泰淳	五〇、〇〇〇円
華頂庵安藤			安藤	宇助	三〇〇、〇〇〇円
浜屋株式会社			外山友里絵		二七〇、〇〇〇円
			中島 史恵		三〇、〇〇〇円

オーストラリア開教地へ

東京教区

八王子組

林海庵

笠原 泰淳

五〇、〇〇〇円

フランス開教地へ

東京教区

八王子組

林海庵

笠原 泰淳

五〇、〇〇〇円

浄土宗開教振興協会 令和6年度事業報告

1 支援事業

①海外開教区・開教地への支援

●申請に基づき助成金を交付

- 1 ハワイ開教区 … 開宗850年・開教130周年記念法要等
- 2 南米開教区 … 佛教文化講座等の教化活動等

②国内開教地域への支援

●教化資料費助成

次の指定地域に対し指定解除までの期間、申請に基づき教化資料購入のための助成金を交付

- ・宮城県仙台市泉区及び富谷市とその周辺
十念寺 伊東 秀真 師（国内開教使4期目）

2 出版事業

- ・開教振興協会会報『開教』第42号発行 7,500部

3 教化資料支援

- ・『浄土宗月訓カレンダー』ポルトガル語版
※データを日本で作成後、南米開教区にて印刷・製本
南米開教区 3,500部
- ・『浄土宗月訓カレンダー2025年版』
ハワイ開教区 425部 北米開教区 320部
オーストラリア開教地 120部 フランス開教地 30部
- ・『浄土宗宝暦2025年版』
ハワイ開教区 25部 北米開教区 40部
オーストラリア開教地 120部 フランス開教地 30部

4 会費取りまとめ教区

●本年度より会費取りまとめ納入教区にのみ 教区報奨金(取りまとめ数×1,000円)を交付予定

※取りまとめ教区：19教区（1組含む）
北海道第一、北海道第二、岩手、埼玉、富山、三河、尾張、岐阜、京都、和歌山、大阪、兵庫、石見、岡山、愛媛、福岡、長崎、大分、長野教区更埴組

5 会員数（令和7年3月末日現在）

令和6年度 正会員 989名

浄土宗開教振興協会 役員名簿

役職	氏名	教区	所属寺院
会長	川中 光教		
理事長	杉山 俊明	千葉	浄國寺
副理事長	山北 光彦	大阪	慧光院
理事	井上 歩導	北海道第一	稱念寺
	武田 眞和	岩手	吉祥寺
	高橋 誠実	東京	無量寺
	山下 法彦	伊勢	樹敬寺
	吉田 隆一	石川	如来寺
	工藤 純裕	鳥取	誓願寺
	永江 憲昭	福岡	一心寺
	秋谷 昇龍	青森	善導寺
	松野 瑞光	長崎	法源寺
	新谷 仁海	東京	功德林寺
監事	前田 晃秀	滋賀	若王寺
	土屋 正道	東京	観智院
	中村 在徹	愛媛	浄念寺

令和7年12月末日現在

■個人情報につき、お取り扱いには慎重をお願いします。

令和6年度 浄土宗開教振興協会歳入歳出決算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

基本資金部【歳入の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和6年度 予算額	令和6年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	返済金		3,000,000	3,000,000	0	
	1.	貸付金返済	3,000,000	3,000,000	0	
		1. 国内開教貸付金返済金	0	0	0	
		2. 開教区貸付金返済金	3,000,000	3,000,000	0	南米クリチバ日伯寺事業(1/10)
2.	繰入金		0	0	0	
	1.	運用資金部繰入金	0	0	0	
		1. 運用資金部繰入金	0	0	0	
	当期歳入合計(A)		3,000,000	3,000,000	0	
3.	繰越金		134,010,000	134,010,000	0	令和5年度末積立金
	1.	前期繰越金	134,010,000	134,010,000	0	
		1. 前期繰越金	134,010,000	134,010,000	0	
	当期歳入合計(B)		137,010,000	137,010,000	0	

基本資金部【歳出の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和6年度 予算額	令和6年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	貸付金支出		0	0	0	
	1.	貸付金支出	0	0	0	
2.	予備費		0	0	0	
	1.	予備費	0	0	0	
		1. 予備費	0	0	0	
	当期歳出合計(C)		0	0	0	
	当期収支差額(A)-(C)		3,000,000	3,000,000	0	
	次期繰越金(B)-(C)		137,010,000	137,010,000	0	

本年度基本資金部の歳入総額は、¥137,010,000 である

本年度基本資金部の歳出総額は、 ¥0 である

したがって、¥137,010,000 を翌年度に繰り越す措置を取る

内 訳	基本資金積立金	¥164,010,000
	貸付金	¥27,000,000
	繰越金	¥137,010,000

運用資金部【歳入の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和6年度 予算額	令和6年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	会費		10,050,000	9,960,000	△ 90,000	
	1.	正会員会費	10,050,000	9,960,000	△ 90,000	
		1. 正会員会費	10,000,000	9,890,000	△ 110,000	会員 989 名 会費未納分
		2. 過年度会費	50,000	70,000	20,000	
2.	寄付金		3,650,000	5,553,657	1,903,657	
	1.	寄付金	3,650,000	5,553,657	1,903,657	
		1. 特別寄付金	50,000	120,000	70,000	
		2. 指定寄付金	3,600,000	5,433,657	1,833,657	4/1 以降南米への寄付含む
		2. 勸募寄付金	0	0	0	
3.	交付金		3,000,000	3,000,000	0	
	1.	交付金	3,000,000	3,000,000	0	
		1. 交付金	3,000,000	3,000,000	0	浄土宗交付金
4.	財産運用		1,200	42,701	41,501	
	1.	資金運用	1,200	42,701	41,501	
		1. 預貯金利子	1,000	38,830	37,830	口座利息等
		2. 運用資金利子	200	3,871	3,671	口座利息等
5.	雑収入		0	0	0	
	1.	雑収入	0	0	0	
		1. 諸収入	0	0	0	
	当期歳入合計(A)		16,701,200	18,556,358	1,855,158	
6.	繰越金		15,257,813	15,257,813	0	令和5年度会計より
	1.	繰越金	15,257,813	15,257,813	0	
		1. 前期繰越金	15,257,813	15,257,813	0	
	歳入合計(B)		31,959,013	33,814,171	1,855,158	

運用資金部 [歳出の部]

(単位：円)

款	項	目	節	令和6年度 予算額	令和6年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	事業費			14,078,200	12,482,592	△ 1,595,608	
	1.	事業支援及び推進費		11,778,200	10,675,579	△ 1,102,621	
		1. 事業支援費	1. ハワイ開教区	1,985,000	1,236,839	△ 748,161	教宣拡張費等
			2. 北米開教区	0	0	0	
			3. 南米開教区	5,070,000	2,929,767	△ 2,140,233	教宣拡張費等
			4. 海外開教地	1,750,000	0	△ 1,750,000	
			5. 国内開教指定地域	460,000	200,000	△ 260,000	教化資料支援費 (R5 年度分含む)
		2. 事業推進費	1. 広報事業費	1,013,200	591,148	△ 422,052	会員拡大事業、HP 保守費等
			2. 企画調査費	1,500,000	5,717,825	4,217,825	WJ、豪州出向旅費等
			3. 勧募事業費	0	0	0	
	2.	出版費		800,000	754,050	△ 45,950	
		1. 会報発行費	1. 冊子開教発行費	800,000	754,050	△ 45,950	『開教』第 42 号
	3.	教化資料費		1,500,000	1,052,963	△ 447,037	
		1. 教化資料費	1. 教化資料費	1,500,000	1,052,963	△ 447,037	月訓カレンダ-、浄土宝曆
2.	寄付金			3,650,000	5,483,657	1,833,657	
	1.	寄付金		3,650,000	5,483,657	1,833,657	
		1. 特別寄付金	1. 指定寄付金	3,600,000	5,433,657	1,833,657	南米、WJ、豪、仏 (貸付金返済金含む)
		2. 勧募寄付金	1. 勧募寄付金	50,000	50,000	0	R5 未送金分
3.	会議費			2,190,000	1,653,971	△ 536,029	
	1.	会議費		2,190,000	1,653,971	△ 536,029	
		1. 会議費	1. 理事会	1,200,000	1,285,600	85,600	2 回開催 旅費その他
			2. 監査会	90,000	104,560	14,560	2 回開催 旅費その他
			3. 企画委員会	900,000	263,811	△ 636,189	2 回開催 旅費その他
4.	事務費			1,350,000	635,030	△ 714,970	
	1.	事務費		600,000	307,087	△ 292,913	
		1. 事務費	1. 事務費	600,000	307,087	△ 292,913	郵便発送費/振込手数料/汎用保守/その他
	2.	渉外費		750,000	327,943	△ 422,057	
		1. 渉外費	1. 渉外費	750,000	327,943	△ 422,057	渉外活動諸費用
5.	賦課徴収費			800,000	670,000	△ 130,000	
	1.	報償費		800,000	670,000	△ 130,000	
		1. 報償費	1. 教区報奨金	800,000	670,000	△ 130,000	教区へ交付 会員数 × @ 1,000
6.	繰出金			0	0	0	
	1.	基本資金部繰出金		0	0	0	
		1. 基本資金部繰出金	1. 基本資金部繰出金	0	0	0	基本資金部への繰出金
7.	予備費			1,000,000	0	△ 1,000,000	
	1.	予備費		1,000,000	0	△ 1,000,000	
		1. 予備費	1. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
当期歳出合計 (C)				23,088,200	20,925,250	△ 2,142,950	
当期収支差額 (A)-(C)				△ 6,367,000	△ 2,368,892	3,998,108	
次期繰越金 (B)-(C)				8,890,813	12,888,921	3,998,108	

本年度運用資金部の歳入総額は、¥ 33,814,171 である
 本年度運用資金部の歳出総額は、¥ 20,925,250 である

したがって、次の会計余剰金が生じたので、翌年度に繰り越す措置を取る

本年度の運用資金部余剰金 ¥ 12,888,921

令和6年度 浄土宗開教振興協会教区別会員数

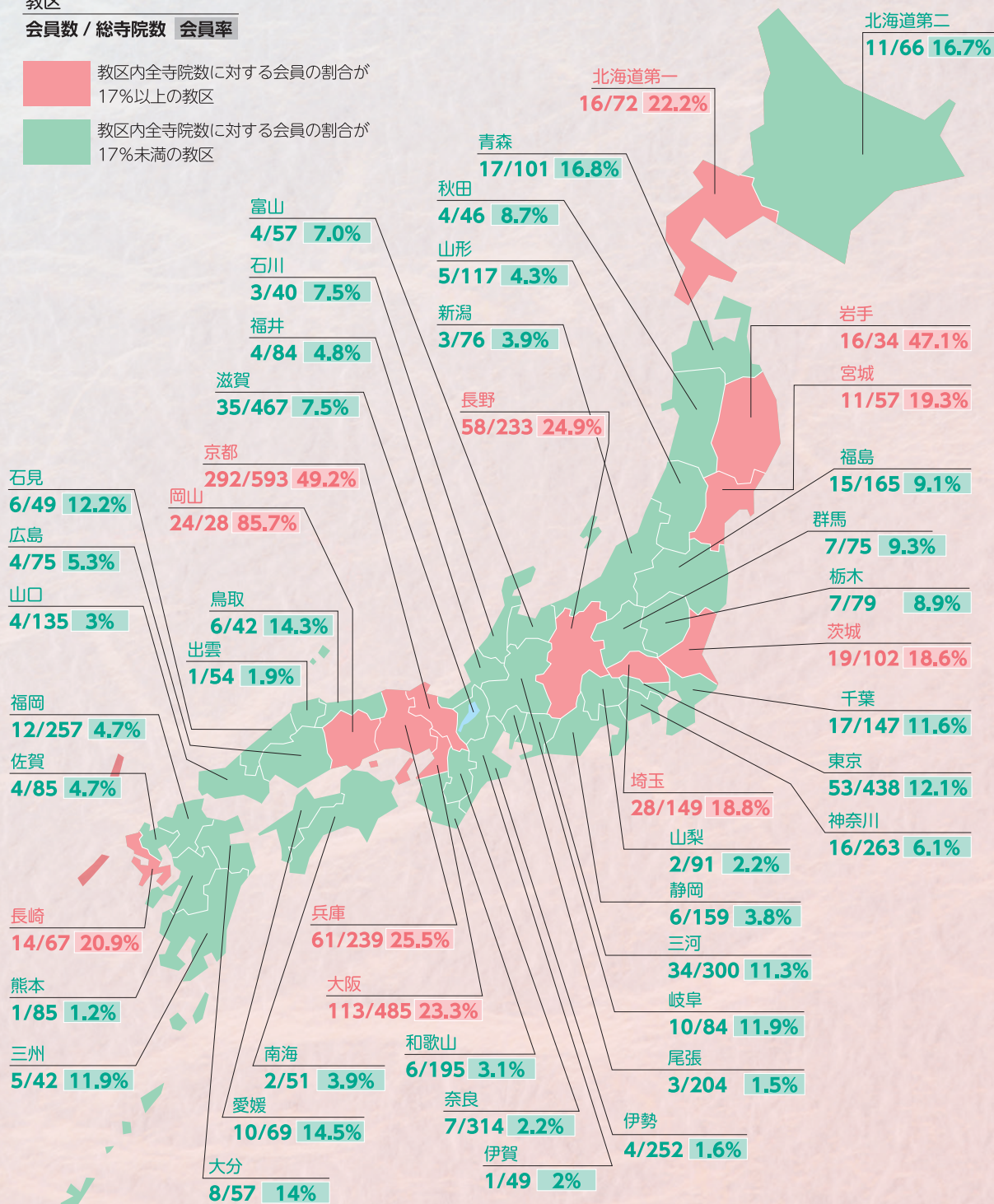
会員数1,200名(全寺院数の約17%)を目標としております。
ご協力をお願いいたします。

教区

会員数 / 総寺院数 会員率

■ 教区内全寺院数に対する会員の割合が
17%以上の教区

■ 教区内全寺院数に対する会員の割合が
17%未満の教区



会員の声

念仏を修せん所はみなこれ予が遺跡なるべし

福島教区中央組大千寺

畑 和徳

令和7年6月、南米開教70周年記念法要とクリチバ日伯寺新本堂落慶法要に有志の若手僧侶を中心とする開教研修コースの一員として2週間、渡伯いたしました。

初めて訪れたブラジルは広大でした。日本の23倍にも及ぶ国土を持つという同国を飛行機や長距離バスで移動し、南米開教区4カ寺や各地の名所を訪問しました。行く先々で日系の方々や檀信徒の皆さまと交流する機会を得ましたが、長旅の果てにたどり着いたホームステイ先での接待などは本当に有難く、私の想像以上に多くの思い出や経験を得ることができました。外国だからこそできた経験から、海外に出て知見を深める大切さを感じました。また同期間には秋篠宮家・佳子さまが訪伯され、そのニュース報道や各地の日系社会の話題に上がっていたことも印象的で、日本とブラジルの精神的距離の近さを感じるものでした。

なかでも一番印象に残ったのは、行く先々のブラジルの方々がお念仏を称える姿でした。



クリチバ日伯寺本堂にて



現地の日系社会も2世3世と世代を重ね、日本語を解する方は少なくなるなか、両親・祖父母の方々から受け継がれてきた「南無阿弥陀仏」のお念仏を高らかに称える姿に感動いたしました。「念仏を修せん所は、みなこれ予が遺跡なるべし」。今回、私の頭に思い浮んだのがこの法然上人のお言葉です。上人がお示しになられた教えが850年の時を経て海を越えて広まり、南米の地でここまで根付いたのは、70年という長い月日にわたる歴代開教使の情熱とたゆまぬ努力の結実であり、その現場を目にし、大変感銘を受けました。

浄土宗教師として念仏教化は当然ですが、人ひとりを念仏者にするには簡単ではありません。今回、開教使の先生方から「檀家制度も仏教的慣習もない海外社会では、伝統よりも一人ひとりととの対話が教化の基本」ということを教えていただきました。

「檀家さんがお念仏を心から信じたいと思うように布教できているのか？自分自身はしっかりと念仏者になれているのか？」これまでを振り返り自問自答した時、知らず知らずのうちに檀家の信仰を当然と感じ、教師としての自己内省と向上心が足りていなかったとも気づき「お念仏を一人でも多くの人へ伝える、お念仏の遺跡を一つでも増やす」という使命感が改めて心に湧いてきました。開教使諸上人の後姿から学んだことを活かし、新たに歩んでまいります。

編集後記

浄土宗開教振興協会報「開教」をお読みいただき、誠にありがとうございます。当協会会員諸師、関係ご寺院各位におかれましては、平素よりご支援賜り厚く御礼申しあげます。

さて、前号小欄にてご案内の通り、当協会は令和5年度の規程改正に伴い名譽・賛助会員を廃止、正会員の毎年度会費制へと移行しました。おかげさまで、令和6年度は前年度を超える方々のご入会をいただきました。来る令和8年度も、益々のご理解ご協力をお願い申しあげます。

今号は、令和7年6月に無事円成となった南米開教70周年記念法要とクリチバ日伯寺落慶法要を中心に、海外・国内開教寺院の活動の様子を紹介しております。各地における課題や念仏弘通の取り組みに触れる一助となれば幸いです。

ここ20数年のデジタル技術の進化に伴い、情報や思想が一瞬で世界中に共有される時代となりました。人々の意識や社会慣習の変化もより急速です。今後私たちの生活の様々な場面において、「日本と世界」という見方に加えて「世界の中の日本」という視座を持つことはより重要になると考えられます。開教使諸師の経験に触れることは、その視座を育む機会の一つと存じます。この点からも、適宜様々な開教活動への支援を継続して参りたいと存じます。

末筆ながら、本号発刊にあたりご寄稿賜りました諸師、ご協力を頂きました皆さまへ深謝致します。

開教 第43号

令和8年4月発行

編集 / 発行 浄土宗開教振興協会
東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部内
Tel.03-3436-3351 Fax.03-3434-0744
制作 表紙・デザイン: 株式会社 北陸アイティエス
印刷・製本: 株式会社 北陸アイティエス



「浄土宗開教振興協会」ご入会のお願い

「浄土宗開教振興協会」は、昭和51年、浄土宗における開教活動への支援を目的に設立、以来、会員各位からの会費やご寄付により、海外の開教区・開教地および国内の開教指定地域における念仏弘通の拠点（開教寺院）の建立、各地の人々へのお念仏のみ教えの流布などの活動を支援、それぞれの地域で多くの方がお念仏との新たな縁を結ばれております。

ここ数年、まだ記憶に新しい新型コロナの世界的蔓延や各地での自然災害を経ながらも、教化事業はそれぞれの地域で徐々に拡充しつつあります。しかしながら、国内外ともに、これらの事業を円滑に遂行させるためには、開教振興協会の会員増加による活動資金の強化安定は絶対条件であります。当協会の支援活動を尚一層充実させるため、一人でも多くの教師諸大徳にご入会をお願い申し上げます。

※協会の会費・寄付は功績点が付与されます。
※ご入会の有無がご不明な方は、担当までお問い合わせください。

本協会は 次の事業を行っております

- ① 宗規第十七号第二条で定める開教区及び開教地指定に関する宗令（宗令第百一号）第二条で定める開教地への支援
- ② 宗規第八十八号第四条及び第五条で定める開教地及び開教使への支援
- ③ 開教使及び国内開教使養成のための支援
- ④ 開教普及のための事業
- ⑤ 事業遂行に必要な調査研究
- ⑥ その他必要な事業

会費の納入および 新会員の入会について

所属教区教務所を経てご納入またはご入会いただくか、下記の口座に直接ご納入くださいますようお願い申し上げます。

寄付金および会費振込口座 郵便振替 00160-5-175767 浄土宗開教振興協会
--

会員の概要

会 員 本協会の運用資金として年額1万円の会費を納入された方

功績点の付与

寄付金および会費については、次のように功績点が付与されます。

会 費 会費(年間1万円)に対して0.2点	寄 付 金
------------------------------	--------------

- ① 一般勧募寄付金・・・20万円に対して1点
- ② 個人寄付金・・・5万円に対して1点

【問合せ先】	浄土宗開教振興協会	〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部内 TEL:03-3436-3351 FAX:03-3434-0744
【Web】	浄土宗開教ネット	URL : https://kaikyonet.jodo.or.jp/

